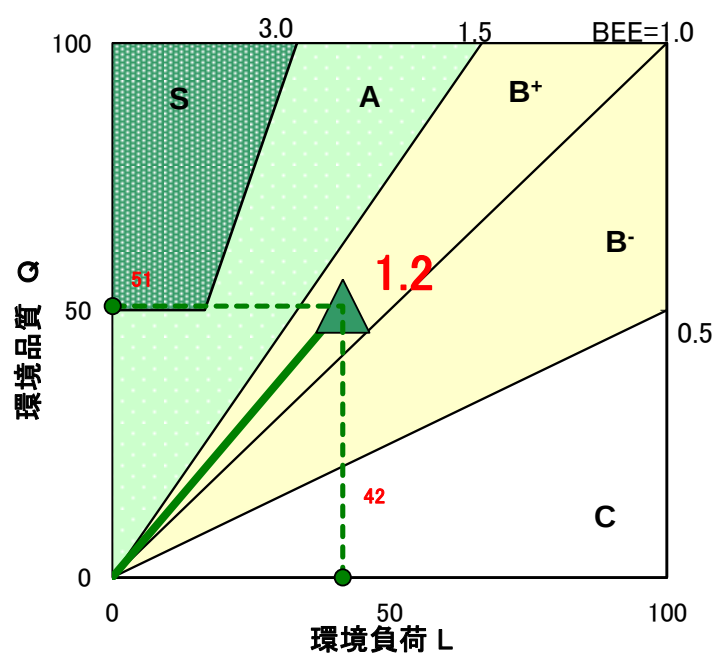


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	レクシア熊本中央エルビエンテ	階数	地上14F	
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造	
用途地域	準防火地域	平均居住人員	XX 人	
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	XXX 時間/年	
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2014年9月1日	
敷地面積	1,710 m ²	作成者	中村 英雄	
建築面積	746 m ²	確認日	2014年7月9日	
延床面積	7,081 m ²	確認者	中村 英雄	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.2

$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

100%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



評価点

81

評価点

■ 熊本県重点評価基準

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

87.2

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

71.2

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

82.5

【重点事項4】 循環型社会の実現

78.7

判定値(評価点)

ランク表示

100点以上



80点以上100点未満



60点以上80点未満



40点以上60点未満



40点未満



※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®

CASBEE熊本

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築(簡易版) 2010年追加版Ver.2 (BPI/BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCB_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	レクシア熊本中央エルビエンテ	階数	地上14F		
建設地	熊本県熊本市	構造	RC造		
用途地域	準防火地域	平均居住人員	XX 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	XXX 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年1月 予定	評価の実施日	2014年9月1日		
敷地面積	1,710 m ²	作成者	中村 英雄		
建築面積	746 m ²	確認日	2014年7月9日		
延床面積	7,081 m ²	確認者	中村 英雄		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+オフサイト手法

100% 100% 100% 100%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.3

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価

評価点 = 81

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 評価点 = 87

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 評価点 = 71

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 評価点 = 83

重点事項4: 循環型社会の実現 評価点 = 79

重点事項の評価(温室効果ガス削減の推進)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補 レクシア熊本中央エルビエンテ			欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPVBEI対応) ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v				
スコアシート			実施設計段階						
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点への転記	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境				0.40				3.3	
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.1 騒音				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	0.50		
2 設備騒音対策				-	-	3.0	0.50		
1.2 遮音				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境				3.0	0.35	3.0	1.00		3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温				3.0	0.63	3.0	0.63		
2 負荷変動・追従制御性				-	-	-	-		
3 外皮性能				3.0	0.38	3.0	0.38		
4 ゾーン別制御性				-	-	-	-		
5 温度・湿度制御				-	-	-	-		
6 個別制御				-	-	-	-		
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-		
8 監視システム				-	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	0.20		
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境				2.7	0.25	3.0	1.00	2.9	
3.1 屋光利用				3.0	0.30	3.0	0.30		
1 屋光率				3.0	0.60	3.0	0.50		
2 方位別開口				-	-	3.0	0.30		
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策				2.0	0.30	3.0	0.30		
1 照明器具のグレア				-	-	-	-		
2 屋光制御				2.0	1.00	3.0	1.00		
3 映り込み対策				-	-	-	-		
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				4.2	0.25	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策			建築材料はF☆☆☆☆を採用している。	5.0	0.60	5.0	0.63		
1 化学汚染物質				5.0	1.00	5.0	1.00		
2 アスベスト対策				-	-	-	-		
3 ダニ・カビ等				-	-	-	-		
4 レジオネラ対策				-	-	-	-		
4.2 換気				3.0	0.40	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50	3.0	0.33		
4 給気計画				-	-	-	-		
4.3 運用管理				-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視				3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	-	3.0	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-		
3 内装計画				3.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-		
3 衛生管理業務				-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震				3.0	0.48	-	-		
1 耐震性				3.0	0.80	-	-		
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新				-	-	-	-	
	2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.0	0.29	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり				-	-	3.0	0.50	
	1	階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ		3.0	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.40	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用				2.5	0.20	-	-	2.5
2.1 自然エネルギーの直接利用			2.0	0.50	-	-		
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-		
3 設備システムの高効率化			住戸専用部には潜熱回収型給湯機を採用している。	5.3	0.40	-	-	5.3
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)		#VALUE!	5.0		-	-		
集合住宅の評価			5.3		-	-		
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1 モニタリング			3.0	-	-	-		
4.2 運用管理体制			3.0	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器を採用した。	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1		雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-		
2		雑排水等利用システム導入の有無	3.0	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				3.1	0.63	-	-	3.1
2.1 材料使用量の削減		ー 床下地:パーティクルボード 量:ダイケン量健やかくん	2.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.24	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-		
1		消火剤	-	-	-	-		
2		発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-		
3		冷媒	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-		
1		雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-		
2		汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-		
3		交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-		
4		廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1		騒音	3.0	0.33	-	-		
2		振動	3.0	0.33	-	-		
3		悪臭	3.0	0.33	-	-		
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-		
1		風害の抑制	1.0	0.70	-	-		
2		砂塵の抑制	3.0	-	-	-		
3		日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-		
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	5.0	0.70	-	-		
2		屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-		

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

外壁は落ち着いた印象の外観とし、街並みと調和がとれるように努めた。

Q1 室内環境

建築材料はF☆☆☆☆を採用している。

Q2 サービス性能

品確法の劣化対策等級は3相当としている。(構造躯体等)

Q3 室外環境(敷地内)

駐車場は住戸比100%確保した。

自転車置場は237%確保し、車歩道分離配置計画を行った。

LR1 エネルギー

照明器具は省エネ効果の高いLED照明を採用した。

LR2 資源・マテリアル

節水型便器を採用している。

LR3 敷地外環境

建設・運用においてCO2排出量を抑えている。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 レクシア熊本中央エルビエンテ

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		81.4
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.2	0.40	34.88
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	2.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.3	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				78.7	0.20	15.74
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数